



## 期待

近隣の大野田小学校出身で、以前、水泳のオリンピック選手になった方がいらっしゃいます。

私が大野田小学校に赴任した、今から30年以上前、卒業したばかりで富沢中学校に通っていたその女性は、小学校の時から既に群を抜いており、有名でした。その後すぐに、本格的に水泳に打ち込むために仙台を離れ、高校時代から全国的にも頭角を表し、国内では無敵を誇るまでになりました。

1991年の世界水泳選手権 400m 自由形では3位に入り銅メダルを獲得。日本人女子の自由形では、世界大会初のメダルで、それをきっかけにマスコミにも大々的に取り上げられるようになりました。

その後、1992年のバルセロナオリンピックに出場し、200m 自由形 6位入賞、メドレーリレー 7位入賞、400m 自由形 8位入賞、100m 自由形 9位という成績を残しました。

しかし、そのとき大野田小学校に勤務しながら彼女を応援していた私は、初めて違和感を覚えました。世界選手権で銅メダルを獲得したことで、オリンピックでもメダルを期待する声が高まっていて、私ももちろんメダルを期待していました。しかし結果は上記の通り。私を含めて日本中が応援していただけに、残念な気持ちでしたが、私が違和感を覚えたのは、手のひらを返したようなマスコミの冷たい論調でした。試合後のインタビューでの受け答えの態度に問題があったという指摘もありましたが、まだ若すぎる彼女に対してマスコミの質問が挑発的で意地悪だと感じる面もありましたし、一般市民からも、「応援していたのに・・・。」「せっかく期待していたのに・・・。」と言った心ない声も聞かれ、本当に応援していたのか？と疑問に思いました。当時大野田小学校には、6年生の時の担任教諭も残っており、「期待を裏切られた」というような世間の雰囲気に対して、「世界を相手に頑張ってきた彼女に対して、努力を称えて労う気持ちでいっぱいでした。しかしこのときもまた、マスコミ等を通して、「期待を裏切られた」というような心ない雰囲気を感じました。

彼女はその後、1995年に開催されたパンパシフィック水泳選手権の 200m 自由形で金メダルを獲得し、翌1996年アトランタオリンピックの金メダル候補として、再び更に注目されましたが、オリンピック本番では個人種目で決勝に進めず、200m 自由形 10位、400m 自由形 13位に終わり、さらにメドレーリレーでも予選落ちとバルセロナオリンピックの成績を下回る結果でした。応援していた者としては残念な結果でしたが、私の周囲の当時の大野田小学校職員は皆、世界を相手に国を代表して頑張ってきた彼女に対して、努力を称えて労う気持ちでいっぱいでした。しかしこのときもまた、マスコミ等を通して、「期待を裏切られた」というような心ない雰囲気を感じました。

そのとき、人を「応援する」他人に「期待する」とはどういうことなのか、自分なりに改めて考えさせられました。

人に期待していると、相手が成果をあげたとき、自分のことのように大げさに喜ぶことがあります。それは相手の成果であり、自分には何の関係もないのに。また、期待が裏切られたと感じたとき、自分には何の関係もないのに、盛り上がっていた自分の気持ちのやり場に困り、期待した相手を責める傾向があります。自分も含めて人間の醜さを感じ、誰かに期待することや誰かから期待されることについて、その難しさを感じました。

子供に対して親が期待することは、「関係ない」とは言いませんが、親子であっても別人格であり、一つ間違えると、少なからず同じような現象が起こる可能性があると思います。応援し、期待しているつもりが、子供が出した結果に一喜一憂して子供を追い込むようなことも起こりかねません。

子供に対して期待することは当然でしょうが、親は野次馬でもマスコミでもありません。結果が出れば共に喜び、うまくいかないときや辛いときは責めたりせず、共に傷つく覚悟を持って心から応援していくことが必要だと思います。

..... 切り取り線 .....

※学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2021年9月3日 ( )年 ( )組 児童氏名